

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401657		
法人名	有限会社 DARIYA		
事業所名	愛の家グループホーム札幌星置		
所在地	北海道札幌市手稲区星置3条9丁目8番11号		
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401657-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25年	3月	27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りの生活リハビリを常に意識しています。
普通の生活の中で、役割を持っていただけるように、定期的にセンター方式を活用し、生活の中でお年寄りの出来ること増やしていただけるように関わっています。
生活の中心にお年寄りがあることで、自然と生き生きとしたホームになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市西端の郊外に位置するホームは、エアコン設置の広くて明るく居間兼食堂やクローゼット、洗面台、トイレを備えた居室など利用者が居心地良く便利に暮らせるよう配慮されています。ホーム開設から今日に至る8年の間に周辺住民との連携にも努力し、町内会総会でホーム紹介、町内会館の諸行事参加や保育園発表会見学、ホーム主催の介護関連講座開催など地域との積極的な交流が行われています。ホームは、職員と利用者が世話をする側とされる側の関係ではなく、皆が助け合いながら暮らしを共にする家族であるとのホーム目標を持っています。職員は理念とこの目標を理解して実践に努めているため、家族は、ホームの雰囲気は明るく笑いがあり、思いやりが感じられると評価しています。全国的に多数の福祉介護施設を展開している運営法人は、毎年実施の家族アンケートで要望等を把握して各事業所の運営に反映させるとともに、法人内研修実施などで職員やサービスの質的向上にも努めているため家族が安心して利用者を預けられるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の3つの理念とホーム独自の理念さらにユニットの理念を作り取り組んでいる	愛の家グループ共通の理念をホーム内に掲示して唱和し、名刺裏にも記載しています。さらに、ホーム及びユニット独自の理念（目標）を作成して実践に努め、利用者へのサービスに反映させています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事の参加や町内会館の利用認知症サポーター養成講座の開催を検討	ホーム開設後、町内会加入と総会でのホーム紹介、各種行事への参加、地域ボランティアによる慰問、介護関連講座の主催など地域との日常的交流が行われています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の随時受け入れは行っている。また、地域に認知症を知ってもらうため認知症サポーター養成講座の開催を検討している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議時は、事故報告書等も随時行いアドバイスや意見を伺いサービスの向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、各ユニット及びホーム全体の運営状況等の報告と参加者からの質問や要望などの意見交換をしています。会議からの要望等は、内部で検討して運営に反映させています。	運営推進会議に利用者家族や外部メンバーの参加者が少ないため、議事録の全家族送付と町内会関係者や地域事業所等への呼びかけで、会議参加メンバーの増えることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは電話連絡、相談が主ですが事故報告等の際には情報共有し協力関係を築くようにしている	行政担当窓口や地域包括支援センターとは運営推進会議など諸会議を通じての連携と電話等で相談や情報交換を行っています。さらに、書類提出等で行政窓口へ出向く事もあり、行政との協力関係構築に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼、申し送り時等に情報共有し状況把握に努めると共にホーム内研修等で拘束をしない取り組みをしている	身体拘束をしないケアのマニュアルや資料を運営法人が作成して整備し、法人内研修も実施しています。職員は、研修やミーティングでケアのあり方を理解し、実践しています。玄関の施錠は夜間のみで、ドアに設置の鈴によって開閉が分かるようになっていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修等を行い、知識、理解を深め虐待につながるようなケアは行わないよう努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修等で学び活用できるように検討している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、ご家族及び本人への説明を行い、同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時や説明の際に意見、要望を聞いているほか、玄関先に意見箱を設置し意見や要望を出しやすいようしている	運営法人は、全事業所について家族アンケートを行って要望等の把握に努めており、ホームでも面会に来訪した家族に利用者の様子や要望等について話し合いをしています。また、毎月発行の「星置つうしん」に併せて写真入りの詳細な個別の「お便り」を郵送しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にヒアリングを行いスタッフの意見聞く場を持っている。また、本社に窓口を設置し職員が相談や意見を出しやすいようにしている	管理者やリーダーと職員は、日常業務やユニット会議でフリーに話し合いをしており、運営法人にも職員からの相談窓口が設けられています。職員からの要望等は、随時、検討しながら運営に反映させるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議にて労働環境について確認したり、休憩時間の取得をすすめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修、社内の上社時研修、ホーム内研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会等で他ホームとの情報交換をする他、近隣ホームの夏祭りにも参加する等し、交流を深めている。また、手稲ふれあいフェスティバル等を通じて他ホームとの連携をとっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前入居時の面談で要望を伺っています。また、ホームの中でも要望を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時の面談で要望を伺っています。また、ホームでの生活が始まってからは連絡やアンケートをとり要望を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺ったり、ホームでの生活の状況を見て頂き、必要な支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に外出、地域での行事に参加している。生活の中で最低限出来ることは一緒に行っています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活の様子を写真つきのお便りで覚悟家族に郵送しています。また、行事にお誘いするなど一緒に楽しんでいただけるよう工夫しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は挨拶を大切にスタッフより話しかけ、再び来ていただけるような環境、雰囲気作りをしています	利用者が以前に通っていた会合や習い事をしていた場所や店などへの訪問希望にはできるだけ支援して馴染みの関係継続に努めています。ホームに來訪した家族や知人を歓迎し、状況によってはおやつや食事提供も行い、気軽に訪問しやすい様に配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り話をしたり、一緒に作業をし関わりを持っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者は現在いないが対応が出来るよう体制は整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式にてアセスメントし生活暦を記載し背景を収集している。日常の会話及び行動にて気付けるよう努力している。月に一度は入居者の検討会議を開催し個別に検討している	ケアプランの各種情報を参考にし、日常の行動や会話などから利用者の思いや意向を把握するようにしています。把握困難な時は、ホームスケジュールに拘らず、本人が納得するように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣、馴染みの暮らしのチェック表にて把握できるようにしている。また、日常会話、ご家族様からの情報の収集にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式に一日の過ごし方を記載した物あり把握している。また、日々の生活記録も記入しており記録からも把握できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会にて職員の気付いたことなど意見を出し合い、それを含めたサービス計画書を作成しチームで共有している	利用者の担当職員がモニタリングを行って3ヵ月毎にケアプランの定期見直しをしています。プラン見直しの時は、家族や担当医師と相談しながらカンファレンスで協議し、ユニット会議等を通して全職員がケアプランを共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケア日報、申し送り等に気付いたことは記入し共有している。またそれをサービス計画作成の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調等の変化による急な受診にも対応している。また、家族の希望による通院支援なども行いホーム生活を多機能にわたり支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員や地域の方に参加していただいている。また、ボランティアや訪問美容も積極的に受け入れを行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックによる健康管理を実施し記録をとり、月2回の往診時に報告をしている。また、状態変化時は電話で指示をもらい連携を図っている。本人、家族の希望により歯科医にも訪問してもらい主治医とより良い関係作りも目指している	利用者は、協力医療機関による隔週毎の訪問診療を受けていますが、かかりつけ医や他の診療科目受診にも主として職員が付き添い、受診結果を家族へ報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の看護師の訪問あり、状況等を細かく伝えている。往診時も一緒について報告、指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連絡を取り合ったり、情報交換し合い、適切な対応方法を聞き伝えあっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な往診の際にご家族にも来ていただき、重度化した場合や、終末期のあり方について話し合いの場をもっている	ホームでは利用者の看取りまで可能なため、重度化や終末期の指針を家族に示して同意書を頂いています。過去に看取りの事例は有りませんが、利用者の状態変化に応じて医師や家族と看取り支援について具体的な話し合いを進めています。	一部の職員を除いて看取りの経験が無いため、ホームの方針と具体的対応策を職員が理解し、ターミナルケアに関する研修を全職員が受講することを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修で年に数回全員を対象に行っている。また、AEDの設置をし使い方の説明を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回避難訓練を行い、誘導方法等のアドバイスを消防員からもらっている。また、消防設備の業者にも来ていただき設備の使い方の説明も受けている	消防署の指導を受けて年2回の避難訓練を実施し、次回から周辺住民も訓練に参加の予定です。緊急通報装置にも町内会防災担当者が入るようになりました。災害用備蓄品もホーム内複数カ所に準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応、言葉かけを心がけている	利用者への言葉かけやケアサービスの際に、人格の尊重とプライバシー保護に配慮しており、利用者によっては、居室内で話し合うようにしています。各種記録など個人情報に関しても適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを伺って外出したり、買い物に行ったり、やりたいことを選択できるようにかかわっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は、基本的には入居者の日課は決まっていなく本人のやりたいことを尊重した対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に服を選んできていただいたり、鏡を見ながら整容したり、化粧、パーマ、髪染めなど随時好みに合わせ行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いはホワイトボードに記載し、職員全員で共有。食材の買い物や食事の準備、配膳、片付けを入居者と一緒に行います。	本社管理栄養士による献立で、職員と利用者が一緒に食材の買い物に出かけています。元気な利用者は、食事の調理や準備、片付けを手伝い、職員と一緒に食事を取りながら和やかに過ごしています。行事食や外食もあって変化のある食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量をチェック表にて把握。食事形態など利用者の状態や力に合わせて対応するよう行っています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の義歯洗浄と平行に、入居者の能力や力に合わせて対応するよう行っています			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排便状況を把握し、それぞれにあわせた声かけ、支援を行っています	居室内にトイレが設置されていますが、利用者の状態に応じて排泄パターンをチェックして把握し、声掛け誘導などでトイレ排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせて、飲食物の工夫を行っています。又排便の習慣化できるように、時間帯にあわせて排便運動を行っています			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お断りがある場合（強い拒否）は、無理に行いません。又、利用者の衛生面、心身状態に応じて支援を行います	利用者の入浴日や時間を決めていませんが、入浴状況や身体状況を見ながら週2回以上の入浴を目標としています。入浴を嫌がる利用者には、入浴の話かけを工夫したり、時間変更などで対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況の把握をし、疲労感や不穏症状がある場合休息を促すよう支援している。希望時にも休息している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が服薬に携わり、薬を理解し症状の変化等に気を付ける様、観察を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や外出レク、食事の手伝い、その場合に合った食事やおやつを提供を行い、気分転換や楽しみとして過ごして頂けるよう行います。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に買い物や近くのコンビニにまで散歩をかねて外出している	散歩が可能な利用者は、近くの公園やお店の買い物に出かけています。ホーム車両を利用して町内会行事や保育園の発表会、花見、手稲山などへ出かけています。また、駐車場でバーベキューや流しソーメンを楽しむなど戸外に出る機会を増やすよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお金の管理（小額）をしている方もいて、本人の個人金で買い物に出かけ支援をしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば図時電話対応をしている。またご家族知人から電話や手紙がきた際も本人自身が対応できるように支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、リビング等のかざりを季節に合わせて行っている	ホームの建物は、開設後8年目を迎えました。玄関、浴室、トイレ、居間兼食堂の共有スペースは清潔感を維持しています。居間兼食堂は、ゆっくり休める応接コーナーなど十分な広さとエアコンが設置されて過ごしやすく、季節の飾りや鉢植え、利用者の写真などで親しみのある雰囲気になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間が同じテーブルに座り自分のスペースも確保している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた家具を配置し、写真や置物をおいて過ごしやすい居室空間にしている	居室内には、クローゼットの他に洗面台とトイレ、物干しボールが設置されており、利用者の生活に便利な構造です。利用者は、馴染みの家具を配置し、壁面には家族の写真など飾ってのんびりと日々を過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じ、手すりや掴まる場所の位置の検討をしている			